

片瀬のぞみだより

宗教法人日本基督教団片瀬教会付属

片瀬のぞみ幼稚園

2019年7・8月号

家庭通信 2019 No.

7・8月主題聖句

まことの光が輝いているからです。ヨハネの手紙Ⅰ 2 篇 8 節)

旧約聖書の中に「箴言」という賢い知恵の言葉が記されている文章があります。イスラエルの歴史では、紀元前の古くから知恵ある人と呼ばれていた「教師」が、人々の日常生活を指導する役割を担っていました。彼らは知恵と言っても人間が生み出したものではなく、神の言葉、戒めに源を置きました。特に強調して教えられていた中心的なことは、人間の心であり、その心を神の前に、清く、正しく守ることでした。

「主(神)を畏れることは知恵の初め。聖なる方を知ることは分別の初め」(9章10節)

絶対的な規準が見失われている日常生活で、絶対的な規準として神の知恵としての御言葉、教えを知る時に、善悪の判断が正しく与えられ、善きことを選び、悪しきことを捨てる能力が与えられるのです。また、神を畏れる時、正しい価値観が与えられ、魂の成長が育成されていくのです。

「若者を歩むべき道の初めに教育せよ、年老いてもそこからそれることはないであろう」(22章6節)

「若者」とは幼い子を含めた言葉で、幼い子供の時からどのような教育をしたらよいのか。人格形成が未熟で柔軟な時にこそ正しい心の教育が重要であり、そうすれば生涯を通して人生の道を踏み外すことはないと教えているのです。その点で幼児期にどんな心の教育を受けるのかが重要な鍵となってくるのです。

文科省の幼稚園教育要領に基づいて幼稚園教育がなされていますが、キリスト教会の幼稚園では、特に三つのことを大切にしています。

① 幼児が一人立ちが出来るように助成する(自主性—自立と自律)

現代は「自立」が育てにくい時代です。先月号のおたよりでも触れましたが、少子化、核家族の時代となり、親は自然と過保護、過干渉になりやすい。子供たちが自分で考え、自分でやりたいと思う前に、待ち切れない親の思いが先行して、子どもの自立性の芽を知らないうちにつぶしているのです。また、この世の機械化、オートメ化が著しく進展し、簡単、便利になるのはよいのですが、人間の生活は一層依存的になり、他律になっていき、自分の手足を使って行うことが奪われているのです。

自律性を養う時にもう一つ大切なこととして「自律」があります。最近高齢者の自動車運転事故が問題になっています。しかし人生のブレーキとアクセルのふみ違いをする人、人生のブレーキが利かない人が、若者から高齢者まで多くいます。今は「キレル」といって感情を抑えることが出来ず、激情的な行動が増え、悲しい出来事が続発しています。「自立」も「自律」も、主なる神を畏れるところから確立されるのです。

② 自分の自立と共に他人に配慮し社会生活を営むことが出来るように導く(思いやり)

「思いやりの心」今の時代は育てにくい社会状況が見られます。21世紀に入ってから、子どもたちは遊び仲間が少なく、安全な遊び場も保障されていません。遊びの主たるものはテレビ、コンピューターゲーム、スマホ等で、家で、汗もかかず一人で楽しむ遊びが殆どといってよいでしょう。かつては近所で群がり、同年齢だけでなく、異年齢の友だちと遊び、ルールを覚え、守り、時には喧嘩も争いもあり、和解の経験もしました。今は子どもたち同士の交わりも減り、思いやりの心、我慢の心、やさしい心等の共感する感情が培われる機会が少なくなっていることは、子どもたちにとって不幸な時代と言えるでしょう。

幼稚園時代は共に神さまから愛されていることを知り、友だちを愛する心が育てられる大切な時です。また、思いやりや、やさしい心は、いつも子どもたちのそばにいる親の子どもに対する態度も、決して無関係ではありません。子どもたちにとって親は最大の教育者であるからです。

③ 創造的能力を開発し積極的に取り組む(創造性のあるたくましさ)

かつて私が園長をしていた時に、何人かの保護者から、うちの子どもは「家では何も出来ない」「何も言わない」「言われたことしかしない」と言われたことを思い出します。その時「しない」のではなく「する力を育てていますか」と答えたことがあります。子どもたちはしばしば、大人がびっくりするほどの遊びを工夫する力を持っていることを保育室で、園庭で、見てきました。しかし家庭ではいつも整った完成品が与えられて、結果的には創造的な意欲を奪ってしまうことが多いのです。欲求が満たされるだけでなく、時には欠乏の経験が必要なのです。

これから親の力が及ばない世界へと成長し、困難な出来事に遭遇した時にどうなるのか。自分の未知のことに出会って躓いたり、自分の思うようにならない時にカッとなって相手を死傷させたり、一度注意されたりすると人生に絶望して引きこもったり、命を絶つ者もおります。

幼児期から課題にぶつかって挫折したり、思うようにならない出来事に出会ってそれを克服し、解決していく適応力を身に着けることが大切です。船の安全性はどんな海の状況の中でも決して傾くことがないように設計されるのではなく、傾いてもまたもとに戻る力「復元力」に重点を置いていると言われていています。想像力を養うことこそ、どんな環境の中でも、それを切り拓いていく力となるのです。

今月の聖書の言葉は「闇が去って、既にまことの光が輝いているからです。『光の中にいる』と言いながら兄弟を憎む者は、今なお闇の中にいます。兄妹を愛する人は、いつも光の中におり、その人にはつまずきがありません。」(ヨハネの手紙Ⅰ 2章8～10節)

聖書で「闇」という言葉は、罪と死と恐怖と孤独とをもたらす迫力があるものです。電気の明るさに慣れている私たちは闇の恐ろしさを知らず、逆に光の有り難さ、喜びをもあまり感じないのではないのでしょうか。

この数年来、度重なる大地震や豪雨などの自然災害の時、被害にあった地方の人々は、どんなにか闇の恐ろしさと光の有り難さを実感したことでしょう。子どもたちが生活し成長していく環境は、決して明るい状況ではなく、むしろ妨げる力が広く覆っている闇の状態と言えるでしょう。

「闇は去った」とあります。私たちの生かされているこの世は、罪と死の恐れが取り巻く闇のような状態でも、救い主として誕生した神の独り子イエス・キリストによって、既に神の支配が始まり、神の光に照らされ、包まれているゆえに、兄弟姉妹を愛して生きることが教えられているのです。神に愛されていることを知り、隣人を愛して生きることこそ現代に求められている「心の教育」の根本であり「片瀬のぞみ幼稚園」の教育目標なのです。神の光に照らされて「自主性」「思いやり」「たくましさ」を養われて健やかに育てられていくことを願っています。

片瀬教会牧師 小林誠治